

わどうがん ねん がつ さいじゆせんし お みはらくしゆつしん たじひまひと  
和銅元(708)年2月、催鑄銭司が置かれ、美原区出身の多治比真人  
みやけまろ にんめい ぜにか ちゆうぞう かんとく  
三宅麻呂が任命されたとあります。催鑄銭司とは、銭貨の鑄造を監督する  
やくにん わどうかいちん はじ にほん はじ  
役人です。ここに、和同開珎の鑄造が始まりました。和同開珎は日本で初  
こうはんい りゆうつう かへい  
めて広範囲に流通した貨幣です。

そのころ、美原にも銅の鑄造工房が存在していました。現在の  
はんわじどうしやどう くらやま たい ちく きょうかい いせき  
阪和自動車道の黒山と太井地区の境界あたりにある「太井遺跡」から、  
ならじだい おこな いぶつ かずおお しゆつど  
奈良時代に鑄造を行っていたことを示す遺物が数多く出土しました。

#### さんこうぶんけん 参考文献

- 『鑄物の文化史 図説日本の文化をさぐる6』石野亨／文 小峰書店
- 『花火職人・筆職人・鑄物職人・桐たんす職人 職場体験完全ガイド36 伝統産業の仕事3』ポプラ社
- 『美原 わが心のふるさと』美原町
- 『鑄物発祥の地と鍋宮大明神(別称 烏丸大明神) 大保千件鑄物師のふる里』鍋島大明神記念碑等奉賛会 鍋島大明神記念碑等奉賛会事務局
- 『まち歩き魅力発見マップ 美原 未来・まちデザインひろば』堺市美原区役所 企画総務課
- 『続日本史』(上) 宇治谷孟／[訳] 講談社学術文庫 講談社
- 『明日話したくなるお金の歴史』阿部泉／執筆・監修 清水書院



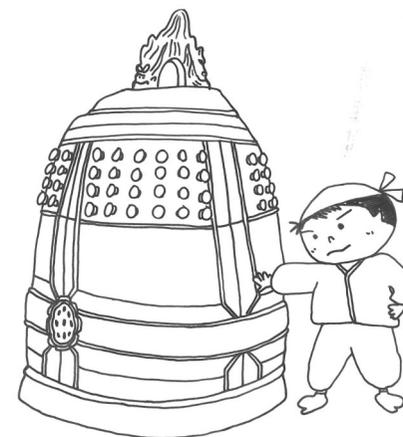
### 堺市立美原図書館

〒587-0002

堺市美原区黒山167-14 電話：369-1166

## かわち いもじ 河内鑄物師のひみつ

みはら  
美原をしらべよう 2



てつ きんぞく と かた なが  
鉄などの金属を溶かして型に流し  
こ かね ぶつぞう なべ かま  
込み、鐘や仏像から、鍋や釜などの  
せいかつどうぐ さまざま せいひん  
生活道具にいたるまで様々な製品を  
つく あ ぎじゆつしゃ  
作り上げた技術者が鑄物師です。鑄  
さく  
物師のひみつを探りましょう。

# 鑄物の作り方

①作りたいものの模型を作る



②模型の型をとる



③作りたいものより少し小さい模型（中子）を作る



④二つの型の間にとけた金属を流し込む



⑤型からはずす



できあがり



# 河内鑄物師

美原区には8世紀初頭から鑄物の工房がありました。平安時代の終わりから室町時代にかけて、大保には多くの鑄物師が集まり住んでおり、「大保千軒」と呼ばれるほどにぎわっていました。

河内鑄物師は高い技術をもっており、その作品を朝廷におさめることでいろいろな労働をゆるされたり、通行自由など、様々な特権を得ていました。また、その特権を使って鑄物だけでなく、鉄や米、絹などの売買も行っていました。河内鑄物師が作る鍋は「河内鍋」というブランド名がついており、大変人気がありました。

河内鑄物師の技術が全国に知られると各地へ出かけていくことが多くなりました。鎌倉時代に東大寺の大仏修理にも参加するほか、全国各地のお寺の鐘にも製作者である河内鑄物師の名前が刻まれています。そのうち、河内国を離れて地方に住むようになり、各地で鑄物の技術を伝えました。鑄物を船で遠くまで運ぶために、港のある堺に移住した鑄物師は堺の金属加工に大きな影響を与えました。



鍋宮大明神は河内鑄物師が自分たちの始祖と仰ぐ石凝姥命をはじめ、初めて鑄物を作ったといわれる鍋子丸をまつたものと言われています。